MBC ラジオ『ここが聞きたい！ドクタートーク』2026.10.31

第 1226 回放送分『眼科疾患』5 回目

ゲスト：宮本純孝ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「眼科疾患」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 宮本純孝（みやもと すみたか）ドクターです。
宮本さん、最終週もよろしくお願いいたします。

宮本純孝Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週、そして先々週は 2 週にわたってドライアイについてお話しいただきました。
このドライアイの検査は、白内障の手術の前にも行うということでしたね。
ドライアイにかかったら
白内障の手術の全体的な結果を損なう可能性があるというお話でした。
今日はその白内障についてお聞きしたいと思います。
まずは簡単に白内障とはどのような病気なのかについてお願いいたします。

宮本純孝Dr.

白内障は、眼の中でレンズの役割をしている水晶体が濁ってくる病気です。
原因は加齢がほとんどで、80 歳をこえるとほぼ全員が
水晶体が濁っていると言われていますが、もちろん視力の下がり方は個人差もあります。

二見いすず

特に鹿児島は、都会と比べるとご高齢でも運転される方が多いので
手術される方も多いのではないでしょうか。

宮本純孝Dr.

まさしくおっしゃるとおりで、運転免許の更新のために
白内障の手術をしたいという方はとても多いです。
手術自体はおよそ 15 分で済みます。
患者さんのご要望、「どこをはっきりと見たいのか？」によって
レンズも選べるようになっています。
さらに機械や計算式の進歩によってその度数を決める技術も進んでいます。

二見いすず

「どこをはっきりと見たいのか？」というのは、
運転する方なら遠方、読書が趣味の方なら近くなど、そういう意味ですよね？

宮本純孝Dr.

はい、そうです。
今では、見たい距離だけではなく、乱視矯正眼内レンズで、
乱視を矯正することもできます。
さらに、選定療養という、一部自費の治療にはなりますが、
遠く、中くらい、近くの３つの距離に焦点が合う多焦点レンズもあります。
また、多焦点レンズの中でも焦点深度拡張タイプといって遠くから近くまで
切れ目なく焦点が合い、より自然な見え方が実現するものもあります。
患者さんのご要望やライフスタイルに応じて選べるようになってきました。

二見いすず

手術後はすぐに日常生活を送れるのでしょうか？

宮本純孝Dr.

基本的には翌日、眼帯を外したときに見えている方が大部分です。
ただ注意していただきたいのは、見えていることと、傷が治っていることは
まったく別のことなので、見えているからといって掃除を始めたり、
お酒をたくさん飲みだしたり、遊びに行ったりなどされると、
現在は以前に比べ、術後感染症のリスクがかなり低くなっているとはいえ、
感染症が起こってしまうと失明する可能性もあるので注意が必要です。

二見いすず

分かりました。白内障は一度手術すれば、その後の手術は必要ないのでしょうか？

宮本純孝Dr.

そうですね。今のアクリル製のレンズの素材は 2、30 年は全く問題ないので
基本的には交換の必要はないと思っていただいて構いません。
もちろん、数年後におこる合併症もありますので、定期検査は必要です。

二見いすず

よく分かりました。
今月は眼科疾患について鹿児島県医師会 宮本純孝ドクターに
貴重なお話をしていただきました。
宮本さん、ありがとうございました。

宮本純孝Dr.

ありがとうございました。